

毎週日曜発行
2019 12/8

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



宮城県で暮らす外国人で、特に増えているのがベトナムの人たち。フン・タイン・タムさん(37)は仙台市青葉区は宮城労働局の外国人相談員として、日本で働くベトナム人の職場の悩み相談に親切に応じているよ。

フン・タイン・タムさん(37)

ベトナム出身／宮城労働局相談員

「どうしました?」。フンさんは宮城野区の宮城労働局監督課で週3回、ベトナム語で相談者の悩みを聞いたり質問に答えたりします。県外か

外国人は職場で問題が



悩みに対応 頼れる窓口

あなたの隣の外国人



起きてても、日本語がうまく話せず解決できないことが少なくありません。「給料が支払われない」「仕事でけがしたのに会社が認めてくれない」などと悩むベトナム人の相談を受け、アドバイスします。会社が法律を守っているかどうか監督する労働基準監督署につなぐこともあります。

「言葉が通じないと、相談者はさらにストレスを感じる。母国語で相談できれば、安心できるはず」と思いやります。ベトナムの首都ハノイ出身。大学3年生で京都に留学し「日本が好きになった」そうです。日

本人男性と結婚し、夫の仕事の都合で仙台に来て東北大学院で勉強しました。2人の女の子を育てながら通訳などを経験し、今年春から宮城労働局で働いています。

日本とベトナムの違いを聞くと「日本人は慎重で丁寧だが、新しいことへの挑戦を恐れるこ



とが多いよう。ベトナム人は大ざっぱでも、『まづやってみよう』とチャレンジする。私は慎重な方なので、日本が合っている」と笑います。

外国人労働者は、働き手が減る日本を支えてくれているよ。相談を受けるフンさんは、私たちにありがたい存在だね。

相談員の仕事について「日本とベトナムの懸け橋になる仕事で、やりがいがある。法律を勉強し、よりスムーズに対応できるようにになりたい」と意欲的に語りました。



笑顔で電話に出るフンさん。日本で働くベトナム人の頼れる相談窓口になっている

今週の注目ニュース

◇10日(火) ノーベル賞の授賞式(ストックホルムなど)

リチウムイオン電池開発が評価され、化学賞に決まった吉野彰さんが出席するんだ。会見や記念講演で「環境問題について発信したい」と話しているよ。

◇12日(木) 「今年の漢字」発表(京都市・清水寺) 日本漢字能力検定協会が募集した、今年の社会の様子を表す漢字で、応募が最も多かった字が大きな紙に筆で書かれるんだ。去年は「災(サイ/わざわい)」だったね。

きょうの紙面

2 イマ★どき

3 3分チャレンジ

4・5 いいね

小学校

6 英語

7

かほくワークシート

8 投稿特集